

タカハシニュース TAKAHASHI NEWS



NO. 73
2024年7月吉日発行

役員の異動のお知らせ

平素は格別なるご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、この度、下記の通り役員の異動を決定しましたのでお知らせいたします。
つきましては、今後とも一層社業に精励いたす所存でございますので、何卒倍旧のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

タカハシガリレイ株式会社 代表取締役社長 鳴田 友和

記

常務取締役 生産・技術本部 本部長 森下 和敏 (新任)
フクシマガリレイ(株) 滋賀工場 担当部長 草木 茂

なお 常務取締役を退任いたしました山田 裕司は最高顧問に就任いたしました。

退任のご挨拶 多くの皆様に支えていただいたこと、感謝いたします。

平素より大変お世話になっております。

この度、小職山田裕司は6月20日の弊社株主総会をもちまして、常務取締役を退任いたしました。
この大役を務めさせていただきましましたのも、多くの皆様に支えられ、ご理解、ご協力いただいた賜物と心より感謝申し上げます。



山田 裕司

振り返りますと小職が高橋工業株式会社に入社したのは50年前の1974年。入社して間もなく、右も左も分からない状態で「ちょっと現場見に行つてこい」と出張を命じられ、そこから約2カ月間家に帰れなかったことを思い出します。

当時の高橋工業(株)は30人弱の小さな会社で、一人何役もこなさなければなりません。自分自身は電気の仕事と聞いて入社したものの、蓋を開ければ冷熱設計、現場、営業をしておりました。フリーザーを納入したものの思い通りに動かなく、たくさんのお叱りを受け、お客様に納得いただけるまでとことん現場に張り付いていたことを思い出します。その経験が私自身の礎となり、お客様や協力会社様、当時の先輩方に多くの迷惑を掛けながらもあらゆることを身に付けることが出来ました。

今考えると信じられませんが休みがないのも当たり前、パワハラ・モラハラが当たり前の時代の中、先人たちと共に考え、精一杯やりぬいた結果、タカハシガリレイという当時では考えられないほどの会社に成長しました。

この度、私は常務取締役を退任することとなりましたが、入社当時から変わらず思い続けていることは「お客さまに寄り添う」ことです。
この想いを社員一同に伝承するとともに、今後は後進育成に力を入れ自分のもっているすべてを渡していきたいと思っています。

本文をもちまして常務取締役退任の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

今後も顔を出すことがあろうかと存じますが、引き続きタカハシガリレイを何卒よろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶 グループ会社での社長経験を活かし、社業発展に貢献します。

この度、常務取締役に就任することとなりました森下でございます。

つい先月まで同じガリレイグループのショウケンガリレイにて代表取締役を務めさせていただいておりました。私自身は勝手ながらとても身近な存在に感じていたタカハシガリレイに、今回新たに仲間として加わることを大変嬉しく思っています。
ガリレイグループの企業理念である生活者・お客さま・お取引様・社員の幸せに寄与するべく、社員それぞれが持つ熱いタカハシ愛を私自身も負けないくらい持ちながら、社業発展を通じて貢献できるように邁進してまいりますので、どうぞご支援賜りますようお願い申し上げます。



森下 和敏

転任のご挨拶 タカハシガリレイでの経験を武器に、新天地でも精進いたします。

お客さま満足をより追求するための製造・生産改革を使命とし、この度、フクシマガリレイ株式会社 滋賀工場 生産管理部 担当部長として出向し、7月16日に着任いたします。1996年高橋工業に入社し、トンネルフリーザーの現場施工及び設計に従事いたしました。その後は施工管理や生産管理に携わるなど、多岐にわたる経験をさせていただきました。在勤中は格別のご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。この経験を活かし、新任地におきましても精一杯努力いたす所存です。
今後ともタカハシガリレイ並びにガリレイグループをよろしくお願い申し上げます。



草木 茂

PICKUP/

導入事例

お客様にご導入いただきましたトンネルフリーザーにより、業務効率化やコスト削減など、さまざまな課題解決に貢献出来た事例をご紹介します。

株式会社シルバーライフ 栃木工場 様 株式会社ヤマノ 様 御引合

連続スチーマー・フリーザーで人員と作業時間の大幅削減！

株式会社シルバーライフ様は高齢者向け配食サービスのフランチャイズ運営を中心に事業展開されているお客様です。群馬工場様では真空パックにした食材に蒸気を当てて殺菌するという真空調理のパック製品を生産されています。

当時の課題や背景をお教えてください

当時はコロナ禍ということもあって自社製品、のほか OEM での生産が拡大しており、既存のラインで、連続処理できないパックが1日あたり5～6000パックほど発生していました。それを処理するのに、バッチ式の加熱機器、冷却機器で処理をして、常に4～5人が5～6時間ずっと付いていて、非常に無駄が多かったですね。

導入いただいた決め手は何でしたでしょうか

フリーザー単体だけではなく前ラインのスチーマーや搬送コンベヤも購入の対象でした。トータルで御社のグループと協力会社で一気に通貫に仕上げていただけることで、製品の設計自体もコストも他社さんより抑えられる形になったので、それが決め手になりました。



栃木工場外観



3



1 OSJ機での生産の様子

2 今回導入頂いた連続式スチーマー

3 主力のまごころ弁当

ありがとうございます。導入後の効果はいかがでしょうか

加熱冷却の作業に従事していた人員が丸々不要になったので大幅な労働時間の削減になりました。製品の受け取りのところだけで済むようになったのが非常に大きいです。物の移動が圧倒的に少なくなったので身体的な負荷も減り、従業員の中からの評判も非常に良いです。

またバッチ式の時は加熱が終了してから冷却に入るまで少し間を空け、粗熱を取らないといけませんでしたが、その間に製品の物性が変わってしまうことがありました。今回、連続式のスチーマー・フリーザーになったことで、品質の変化が抑えられるようになりました。



インタビュー 横田工場長

「最近はお惣菜・お弁当に加え人間が食べられるペットフードが人気」

DATA

- 株式会社シルバーライフ様
- 栃木県 足利市
- 対応食品 弁当・惣菜
- フリーザー OSJ 機
- 搬送コンベア、スチーマーも含めた総合提案

MOVIE でみる！

株式会社シルバーライフ様

群馬工場 編

処理能力 2 倍で
生産時間の短縮を実現



栃木工場 編

作業時間と人員の大幅削減



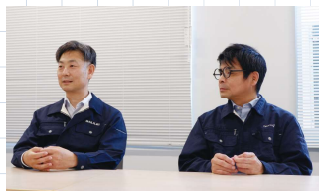
各工場長のインタビューです！
お客様の生の声ぜひご覧ください！

トンネルフリーザーが誕生してからちょうど 50 年が過ぎた 2011 年、高橋工業のエンジニア 3 名に製品開発スピリットやお客様のニーズに関するインタビューを実施しました。そこから 13 年が経ち 3 人のエンジニアは今や会社の根幹を担う管理者に。創業 65 周年の特別対談として当時のことを振り返りながら改めてタカハシガリレイの強みや今後についてのお話を伺いました。

この 13 年間のお客様のニーズや市場の変化を教えてください。

宮地 :13 年前のお客様のニーズといえば小型化やメンテナンスのしやすさなど製品に対する要望が中心で、「環境への配慮」や「食品の鮮度保持」についての要求が少しずつ出だした頃でした。

ここ最近では最新鋭の機械を揃えて自分たちの工場はこれです！という商品だけでなく自社工場の強みを展開しているように思います。ロボットや自動搬送システム、自然冷媒システムなどに加え、遠隔監視などを取り入れ、食品工場自体にも変化が見られるように感じます。お客様だけでなく自分たちの意識も変えていかなければならないと感じています。



草木 :世界を動かしたコロナやウクライナ戦争による変化が大きかったように思います。

コロナ前まで CVS やスーパーではチルド食品需要が多かったですが、コロナにより外出ができなくなり、消費者の間で一気に冷凍が広がりました。当時弊社として売上を伸ばしていたのは冷却用のフリーザーでしたが、お客様が求めるのは凍結用のフリーザーです。

美味しい商品を普通に冷凍させても美味しいとは限らない。そのため、美味しいものを更に美味しくするような冷凍技術が求められていますので当社も研究をしていかなければいけないと感じています。

古川 :そうですね、かつてはフリーザーの能力が求められていましたが、今はソフトの面が求められていることをひしひしと感じます。「食材に合った方法で美味しく冷やす」ということにステージが移ってきているのでしょう。これについては TFS 課の適材適冷、MLAB を活用して商品開発をしていく、という価値創造に合致しているのではないかと、と思います。

その様な変化の中で大切なことを後進たちにどのように伝承していかれたのでしょうか？

草木 :当時の高橋工業はまだ規模が小さく、競合の大手機械メーカーばかり意識していたように思います。ところが、今は「冷凍」を売りにしている競合他社が増え、他社が良い、と言われるとすごく敏感になっていますね。

他社を知るのも大事だけど自分たちの装置はどうなのか、どういうポリシーで、どういう思想で設計しているのか、という原点回帰がこれからも大事だと思います。そこさえ間違えなければこれからもトップを走り続けられるのではないかと、と思います。

古川 :今までのモノづくりは経験や勘に頼っていた部分が実際あるのですが若い設計の人たちに伝えるのに伝わっているのか？と疑心暗鬼になることがあります。これらを、数値化やデータ化など見えるようにしていったら腑に落ち、もう少し具体的になるのではないかと思います。

また、計測機器やセンサー機器などの技術が発展し、取り入れることが容易になっています。そういうことも活用し 機械設計や技術発展の効率化に役立てていこう、と思います。

世界で戦えるフリーザーに。世界でナンバーワンを目指す。

これからの目標を教えてください。

草木 :今年になってフリーザーで No.1 を目指そう、世界一のフリーザーメーカーに、を目標としたときに自身の中で納得できるものがありました。タカハシが目指すところはそこなのではないかと。

トンネルフリーザーを知っている人はタカハシのフリーザーの認知はしていますが、それは国内だけの話しで世界でもトップにならないといけないと思っています。そこを残し、後進に引き継ぐ。目指すところはそこかな、と思います。

古川 :国内に新工場を立てて日本一のフリーザー工場を達成した後に、海外にフリーザーの基幹工場を作る。東南アジア、欧米になるかは分かりませんが、世界に供給できる体制を作っていきたいですね。そうなれるような準備をして引退したいな。タカハシの社員何人かが海外に散らばっているかも。

それだけでなく、国産の食材の品質の良さ、安心で安全な食材を世界中の人たちに食べてもらいたい。そのためにフリーザーで手伝えることがあるのではないかと。原料そのものを温度コントロールできる技術があり、日本には世界中で喜ばれるホタテやいくら、ウニ、フグ、ブリ、和牛や野菜などの食材が豊富にある。それを広げるための一役を担うフリーザーにすごく価値があると思います。SDGs の課題解決だけでなく、動力、電気エネルギーの省力化も含めて世界に広げる価値があると思います。使命感を持って海外に乗り込んでいけると、と思います。

変わらない想いとは。

タカハシの最大の強み、仕事に於いて譲れないことは何ですか。

草木 :決してあきらめないこと。最後までやり遂げること、やり抜く力があること。それは 13 年経っても変わらないことです。それがタカハシガリレイ技術者の誇りです。

古川 :お客様のさまざまなご要望を受け止め、どうかタチにするかを出発点にして、製品の開発に取り組んでいることに変わりはありません。お客様に寄り添ったオーダーメイドのフリーザーをお届けする、それが原点にあります。

宮地 :フリーザーという製品を通じて、どう社会に貢献するのか。その視点から責任感と使命感を持って新しい製品を生み出していく。そこは変わらず持ち続けているところです。お客様に喜ばれる製品をつくる、お客様の利益や消費者の豊かな食生活に役買いたい。そんな思いでどんな困難にも負けないチャレンジスピリットは深く心に刻まれています。



最後にお互いへのエールをお願いいたします。

古川 :山あり谷ありで色々なことがありましたが、皆がいるから乗り越えてこれた。これからもよろしく願います！

宮地 :年齢的にも色々出てくる頃。健康には気を付けて（笑）

草木 :グループ会社のフクシマガリレイ滋賀工場へ出向しますが、皆さんの活躍を祈っています！

MEMORY

13 年前のみなさま！

お若い・・・ですがあまりお変わりなく感じします。
まだまだタカハシの要として引っ張っていただきたいです（編集者）



profile 草木茂 くさきしげる 1997 年入社。 設計、施工・サービス、生産本部を経て 7 月よりフクシマガリレイ滋賀工場へ着任。はじめて設計したフリーザーはお好み焼き用のパッチ式フリーザー。	profile 古川岳彦 ふるかわけつひろ 1994 年入社。 設計、営業と経た経験から現在は価値創造部として市場ニーズから技術への探求に本腰を据える。現在のタンク式フリーザーの原型を開発・設計した。	profile 宮地史浩 みやじふみひろ 1993 年入社。 長年設計、開発業務に従事。トンネルフリーザーの要である「SJ ノズル」を開発した。顧客目線のオーダーメイドに対する想いは誰よりも熱い。
---	---	---

—— 世界最大級の食品製造総合展 ——
FOOMA JAPAN 2024
FOOD PROCESSING TECHNOLOGY EXPO

出展レポート

6月4日～7日に東京ビッグサイトで
開催されたFOOMA JAPAN 2024に
出展いたしました。
ご来場くださった皆様
ありがとうございました！
今回は出展の様子を
少しだけ紹介します。



冷凍のプロによる
プレゼンセミナー
は、その食材や食
品の特長を活かした
冷やし方や冷凍
市場などを中心に、
多くの方にお集ま
りいただきました。



トンネルフリーザー OKF機



←↑どちらもバラ凍結専用
機です。フードロス対策にな
るIQF技術は多くのご来場
者様に注目されていました。

小型IQF装置



↑目玉商品のスパイラルフ
リーザーは、スケルトン仕様
で360°ご覧いただけるよう
展示しました。

スパイラルフリーザー SPIN SHOCK



CO₂自然冷媒冷凍機ユニット
NOBRAC



↑トンネルフリーザーなど、大型
冷蔵/冷凍設備のために開発しま
した。自然冷媒冷凍機のお問合せ
が増えています！



トンネルフリーザー
CUBIQ



→2m×2mという超小型
サイズが人気です。内部ま
でじっくりご見学いただき
ました。



ご来場いただいた方
誠にありがとうございました！

GALILEI

タカハシガリレイ株式会社 URL : <https://www.galilei-tm.co.jp/>

大阪本社 〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島2丁目6番18号

TEL : (06) 6471-0851 FAX : (06) 6471-8646

本社工場 御幣島工場 北海道営業所 仙台営業所 東京支店 中部営業所 四国営業所 九州支店